4. 勤労婦人の妊娠，分娩，胎児に与える影響に関する疫学調査

北海道大学医学部産婦人科学教室
一戸 喜兵衛・下斗米 啓介
菅原 卓・林 宏

Ⅰ 研究目的

近年のわが国におけるめざましい産業の伸展は，社会構造に変革をきたし，婦人が種々の産業面に直接たずさわる傾向を助長させた。とくに既婚婦人有配偶者の就業数が増加してきており，婦人の妊娠，分娩に対して，労働という要因がどのような影響を与えるかという問題は，最近重要な課題となってきている。

ここでは，勤労婦人（職業婦人）および家庭婦人における妊娠前の月経歴，妊娠中の母体合併症，分娩時の母親の異常，新生児所見などについて，発生頻度に差があるかどうかを統計的に比較調査し，また職種別，労働時間別にも検討した。

Ⅱ 調査方法

1. 調査対象は，本研究班の8大学（東北大，東大，名大，近畿医大，京府医大，広大，久留米大，北大）の産婦人科学教室ならびに関連病院において，昭和55年9月から56年12月までに扱われた妊娠婦人の調査カードを用いて資料を収集した。このうち，勤労婦人2,214例，家庭婦人5,441例を選び，それぞれの集団の妊娠について臨床経過を統計的に比較した。
2. 調査の項目：妊娠婦人の年令分布，月経不順の頻度，妊娠の合併症（切迫流・早産，妊娠中毒症，妊娠貧血など），分娩経過（分娩時間の延長，分娩様式，出血量の異常，前・早期破水など），新生児所見（新生児仮死，新生児の体重，先天異常，重症黄疸，呼吸障害，死産の頻度など）について分析を行った。
3. 分析方法：(1)家庭婦人群と勤労婦人群に分けて分析した。(2)勤労婦人を職種別に，①看護婦，助産婦（253例），②医師，薬剤師，技師（97例），③教師（244例），④保母（110例），⑤事務一般（803例），⑥自営業（146例），⑦店員（200例），⑧農業（33例），⑨美・理容師（30例），⑩その他（277例）に分けて，それぞれを家庭婦人と比較検討した。(3)昭和56年6月より同年12月までの職業婦人1,226例について，1日平均労働時間が8時間以上の群212例と8時間以下の群1,014例に分けて，それぞれと家庭婦人ならびに両者間での頻度について比較検討した。

Ⅲ 研究成績

1. 年令分布

勤労婦人と家庭婦人の年令分布について，5才を区切りの分布をみると，25～29才にピークをもつ正規分布で，両者は非常によく一致していた(図－1)。

2. 妊娠前の月経不順

妊娠前に月経不順であった頻度は，職業婦人22.7％，家庭婦人14.6％で有意差があった($P<0.005$)。また種職別では保母に25.5％と高い傾向を認め($P<0.005$)，労働時間が8時間以上の群10.8％，8時間以下の群27.1％であり，8時間以下の群に家庭婦人ならびに8時間以上の群よりも有意に高い傾向を認めた（$P<0.005$）（表－1①，②）。

3. 妊娠中の異常

切迫流・早産は職業婦人，家庭婦人で差を認めないが，妊娠中毒症，流・早産，糖尿病が職業婦人に多く，妊娠貧血が家庭婦人に多い傾向を認めた（表－2，①）。8時間以下の群で妊娠中毒症の頻度が高く，流・早産は8時間以上の群に多かった（$P<0.005$）（表－2，②）。職業別の検討では，切迫流・早産が看護婦・助産婦9.1％，事務一般8.8％と家庭婦人の5.5％に比し高い傾向が認められた。

4. 分娩様式

勤労婦人の自然分娩頻度は82.4％で，家庭婦人の85.5％より低い（$P<0.005$）。逆に吸引分娩，鉗子分娩，骨盤位分娩は職業婦人に多いが，帝王切開は両者間に有意差はみられなかった（表－3）。労働時間による分娩様式の違いは認められなかった。

5. 母親の分娩時の異常

前・早期破水，分娩時間の延長，分娩時異常出血について検討したが，職業婦人と家庭婦人でいずれも有意差を示さなかった。

6. 新生児所見

新生児の体重についてSGA，LGA の頻度を調査したが，職業婦人と家庭婦人に有意差はなく，また勤労時間による差も認めない。出生時仮死，重症黄疸，呼吸障害，先天異常などの頻度にも勤労婦人と家庭婦人に差がなく，労働時間による差も認めなかった。しかしながら，死産は職業婦人2.0％，家庭婦人1.2％と有意差が認められた（P＜0.005）。

Ⅳ 考　察

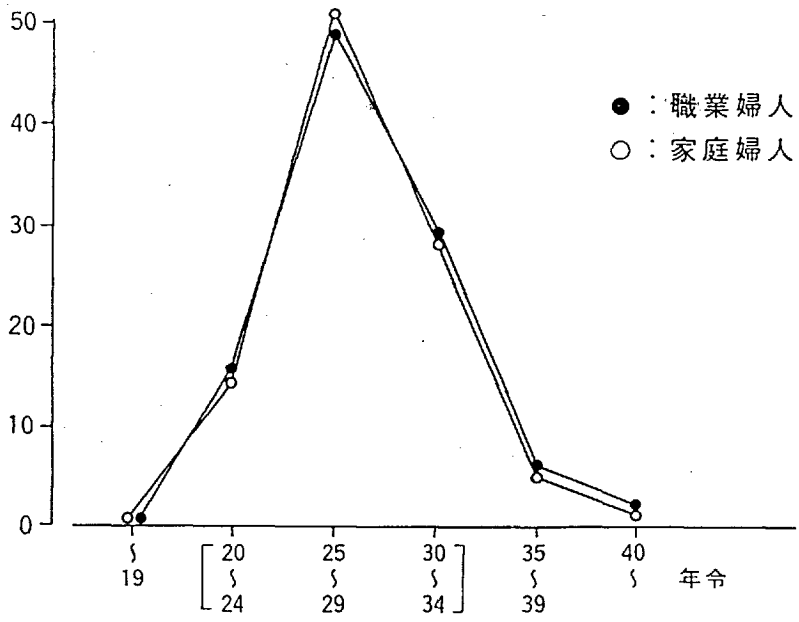
今回の調査では，いまだ症例数が充分でなく，職種別の検討をはじめ検討できなかった項目もあるが，将来例数を積み重ねることによって，更に詳細な検討が可能であると思われる。また，労働時間による検討も一部行なったが，単に労働時間のみならず，労働作業の内容，職場環境などの複雑な要因が関与していると思われ，この方面の検討も必要であろう。

Ⅴ 要　約

職業婦人では，家庭婦人に比べ，1）月経不順の頻度が高い。2）妊娠中毒症，流・早産，糖尿病合併が多い傾向がある。3）自然分娩が少ない。4）死産が多い。

8時間以上の労働時間の群では，流・早産が多い。

図－1　妊娠婦人の年令分布



表－1①　月経不順の頻度

職業婦人	家庭婦人
476／2096	748／5125
（22.7％）	（14.6％）

（P＜0.005）

表－1②　月経不順の頻度

職業婦人		家庭婦人
8時間以上	8時間以下	
23／212 ※ (10.8%)	275/1014 ※ (27.1%) (P＜0.005)	748/5125 (14.6%)

(※P＜0.005)

表－2①　妊娠中の異常

	職業婦人		家庭婦人	
切迫流・早産	162／2095 (7.7%)	……416／5169 (8.0%)		
妊娠中毒症	249／2095 (11.9%)	＞	525／5169 (10.2%)	(P＜0.05)
妊娠貧血	145／2095 (6.9%)	＜	430／5169 (8.3%)	(P＜0.05)
流・早産	143／2095 (6.8%)	＞	284／5169 (5.5%)	(P＜0.05)
糖尿病	29／2095 (1.4%)	＞	28／5169 (0.5%)	(P＜0.005)

表－2② 妊娠中の異常

	職業婦人		家庭婦人
	8時間以上	8時間以下	
切迫流・早産	23／212 (10.8%)	84／1014 (8.2%)	416／5169 (8.0%)
妊娠中毒症	24／212 (11.3%)*	167／1014 (16.5%)* (P＜0.005)	525／5169 (10.2%)
妊娠貧血	23／212 (10.8%)	96／1014 (9.5%)	430／5169 (8.3%)
流・早産	22／212 (10.4%)** (P＜0.005)	50／1014 (4.9%)**	284／5169 (5.5%)
糖尿病	1／212 (0.5%)	12／1014 (1.2%)	28／5169 (0.5%)

※ P＜0.10
※※ P＜0.005

表－3 分娩様式

様式	職業婦人		家庭婦人	
自然	1700/2063 (82.4%)	＜	4382/5125 (85.5%)	(P＜0.005)
吸引	181／2063 (8.8%)	＞	339／5125 (6.6%)	(P＜0.005)
鉗子	24／2063 (1.2%)	＞	39／5125 (0.8%)	(P＜0.10)
骨盤位牽引術	41／2063 (2.0%)	＞	71／5125 (1.4%)	(P＜0.10)
帝王切開	158／2063 (7.7%)……365／5125 (7.1%)			

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

Ⅰ研究目的

近年のわが国におけるめざましい産業の伸展は,社会構造に変革をきたし,婦人が種々の産業面に直接たずさわる傾向を助長させた。とくに既婚婦人有配偶者の就業数が増加してきており,婦人の妊娠,分娩に対して,労働という要因がどのような影響を与えるかという問題は,最近重要な課題となってきている。

ここでは,勤労婦人(職業婦人)および家庭婦人における妊娠前の月経歴,妊娠中の母体合併症,分娩時の母親の異常,新生児所見などについて,発生頻度に差があるかどうかを統計的に比較調査し,また職種別,労働時間別にも検討した。